

ファザー・オブ・
ザ・イヤーinみえ

大賞

“我が家の 育児男子”部門

伊勢市

こにし たか お

小西 隆緒 さん

推薦者 本人(自薦)／小西 めぐみさん(妻)

育児対象 子ども(1歳、15歳、16歳)



僕と妻は再婚です。そして彼女には二人の子どもがいます。現在15歳と16歳です。僕はいきなり難しい年頃の男の子の父親になりました。

いきなり高校受験の真っ只中。家中の空気がピリピリ、胃がキリキリ…そして中学の卒業式では皆さんに僕の号泣を披露。高校に入学してほっとする間もなく妻の出産がやってきました。2014年4月11日。元気な男の子です。

こうして現在五人家族です。何せ食べ盛りの食費は凄まじく、負けじと赤ちゃんもミルク飲む飲む！よって産後間もない妻に働いてもらってます。

妻は大学で就職支援の仕事をしています。繁忙期に突入する1月から僕は彼女に代わって家庭を守る「専業主夫」になるため育児休暇をとる決心をしました。会社も許してくれたのが嬉しかったですね。感謝しています。

初めての専業主夫の世界に戸惑いました。社会に関われない疎外感や子守り続ける事のストレスもあったんですね。本末転倒ですが、仕事から帰ってくる妻に対し八つ当たりをしてしまったこともあります。ごめんね…

子育てママの気持ちが少しだけ、痛いほどわかりました。

ですが、徐々に慣れてくるものですね。離乳食教室に赤ちゃんを抱えて出かける余裕もできました。その夜に早速覚えてきた献立を美味しく食べてくれました。嬉しいものですね。

こうして僕は通常、お父さんができない貴重な経験を3カ月もできたのです。

最後にミルク、離乳食、おむつかえ、絵本読み

等、奥さんともほぼ対等に張り合える、そう、僕はイクメンパパなんです。

めぐみさん推薦文…

三男の妊娠が発覚した時、主人は「俺はイクメンになる！仕事(私の)も頑張っしてほしいから育児はもちろんのこと家事もできる限り協力する」と宣言してくれました。

その言葉通り、三男が1歳4カ月になった今でも育児に仕事に家事に奮闘してくれています。

育児は大変なこともあります。我が家では、「どちらが家事育児を担当する」というのではなく、「できる方ができることをやる」という方針のもと、夫婦二人三脚で協力しながら乗り越え、家族みんなが平和に過ごすことを楽しんでいます。

審査員共感ポイント

- ご夫婦それぞれの応募ということで、お互いが認め合って、育児を共有しているところが伝わってきた！
- 専業主夫になるというのは勇気がいること。共働きで今はお互いが支え合っているところを見ると今の時代のいい夫婦の形だと思う。
- パパが、子育てに専念された専業主夫の間、「社会に関われない疎外感」を味わったという点がとても大切なこと！